



# 催眠惑星 Mars

おとこじゅく  
ななしのいち

成人向



僕は七志乃一。

とある公立高校に通う男子学生。

唯一の趣味は写真。

そして写真部(部員は僕一人)に所属

定期的に行われる学校行事の写真は僕の担当で

学内ではそれなりに貢献しているつもりだ。

しかしクラスの中では目立たず。

友達と呼べる人間もほとんどいない。

昼休みになるといつも隠れて弁当を食べ、

たとえば病気で長期間休んだとしても

だれにも気づいてもらえない。

いわゆる典型的な陰キヤだ!

そしてこれはその陰キヤの僕が

クラス一陽キヤの女子を辱める物語!

ダークウェブを覗いていて

偶然発見見つけた催眠アプリ!

本当にこんなもので催眠術か!?

しかしフリーアプリだし……

効果があったら儲けもの!

まよわずダウンロードした!

これであの女を……!

この女のせい……



ダウロード

火野レイ!

催眠惑星 Mars

あれは・・・

僕が卒業アルバムに載せる写真を撮るため

校舎を回っていたときのこと・・・

室内プールを撮影しにきてみたら・・・

あ・・・あれは・・・水野さん・・・

同じクラスの僕の憧れの水野さん！

悪いとは思いつつ・・・

僕は夢中でシャッターを切った！

おおおおおっつ！

なんとという至福の時間！

50mm 1/200 F4.0 ISO100 -0.3EV

AF-C



火野レイだ・・・！

確かあなた同じクラスの・・・  
名前は・・・なんだったかしら・・・

誰でもいいわ！  
影の薄いヤツよね！

《・・・僕のこと憶えてはいるのかよ・・・！

なにやっているの！？  
あなた！

盗撮よね！

気を付けて！

こいつ変態よ！  
亜美ちゃん！

こんな変態が  
同じクラスなんて・・・！

虫唾が走るわ！

ち・・・違う・・・

水野さん・・・誤解だよ！

こんなことする人  
だったなんて・・・

いやだ・・・  
七志乃君・・・

え・・・！！！！！！



シコ

火野レイ・  
彼女も僕のクラスメイト・  
強気で高飛車な性格で  
近寄りたがい雰囲気をもいつも  
かもしだしている！

しかし見ての通り超美人で  
学園でも5本の指に入る  
男子に人気の美少女だ！

よりによって火野のヤツ・  
憧れの水野さんの前で！

シコ

僕を変態呼ばわりしやがって！  
赤っ恥だ！

それにコイツ・  
僕の名前すら覚えていなかった！

見てるよ火野！

絶対に許さない！

絶対復讐してやるっ！

許さない！

許さない！

許さない！

許さない！

犯してやりたい！

レロプしてやりたい！

レロ

レロ

レロ

ぼろ雑巾のようになるまでレロプしてやって

コイツの身体にありったけの精液

ぶちまけてやりたいっ！

うおおおおおっ！

イクウウウウウウウウツ！

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



次の日の放課後。

火野を教室に呼び出した!

確か・・・変態の七志乃君だっけ!?

童貞の七志乃君だっけ!?

何の用かしら!?

くっ・・・相変わらずキツイ女だ!

「昨日僕から取り上げたカメラを返して欲しいんだ!」

「それに・・・僕をバカにしたこと謝罪してもらわないと・・・」

48日(金)

挙動不審な男ね!  
はつきりしゃべりなさいよ!

返すわけじゃないよ!

なんで私があなたに謝罪なんか・・・

盗撮は事実でしょ!

謝罪してほしいのはこっちなんだけど!

これだから童貞の陰キャは相手にしたくないのよ!

く・・・そういうと思ったぜ!

それならこの催眠アプリで!

効くかどうか分からないけど・・・

僕にはこれが最後の手段だ!

「これを見る!」

何よその変なマーク!

それが何だっけというの!?

まったくばかばかしい!

あなた変態で童貞の上に・・・

もしかして催眠術のつもりか何か!?

厨二病なのかしら!?

用がないのなら私は帰るわよ!

童貞のあなたと違って私は多忙なんだから!

それじゃ!

「ま・・・待て！」

「帰るんじゃない！」

！

な・・・何これ!?

「手をあげて後ろで組むんだ！」

「カメラは返してもらおうよ！」

手が勝手に・・・!?

効いた!?

催眠アプリの効果があったのか!?

これはいい!

動けない・・・!?

身体がいうこと・・・

それじゃ・・・試した・・・

「スカートをたくしあげてみて！」

あなた・・・  
私の身体に何をしたの!?

くっつ!

おかしなことしたら  
承知しないわよ!

おお・・・意外・・・純白のパンツ

あの高飛車な火野さんが・・・

僕の意のままだ!

そんなこと  
するわけ・・・

ああああっ!

いやああああっ!



何をするつもり？

「どうやらキミは

僕の統制下にあるみたいだね！」

これ以上変なことしたら  
許さないわよ！

「高飛車なキミになんでも

できちやうよー！」

あああああつ！

「どうも僕は童貞さー！」

どこ触ってるのよ！

「ああ・・・これが女子のオッパイかー？」

離してっ！

早く手を離さないよ！

やめなさいよ！

「初めて女子のオッパイをわったよー！」

「ああ火野さんのオッパイー！」

「生のオッパイも

見てみたいな！」

「ううよねー！」

ああっつ！

何するの！

この変態！

「おお火野さんのナマ乳ー！」

早く離さないよ！

いいかげんにしなさいよ  
この変態！

「火野さん着痩せするんだー？」

「結構胸大きいよねー？」

早くその汚い手を  
どけてちょうだい！

ああっつ！

あああああつ！

「火野さんの乳首ー！」

「いじっっちゃおうかなー？」

「淡いピンク色で

綺麗な火野さんの乳首ー！」

「おおおお・・・こりこりしてるー！」

「うん気持ちうん〜」

いやあつ！

「もしかして感じてるんじゃないの〜？」

いやあああああつ！

「あの強気な火野さんが・・・  
こんな弱気な悲鳴をあげるなんて！」

くっくっく！

「気は強いけど」

「乳首は弱いのかな!？」

「いやいや言いながら」

「気持ちよかったんでしょ!？」

「乳首で感じてたんでしょ!？」

「乳首弄ばれて」

「悦んでいたんでしょ!？」

誰があなたみたいなの  
陰キヤに触られて・・・

「ウンはいけないうよー！」

「ちゅ・・・」

「今度は僕の前に跪くんだ!」

「まだ何かするつもり!？」

「おおっ・・・」

「いい恰好だね!」

「僕のことを見下してた  
火野さんが・・・」

「僕に見降ろされてる  
なんて・・・」

「ああいい気分だな!」

ズン

「私に何をさせるつもり!？」

「それじゃ今度は・・・」

「僕も気持ちよく」

「してもらおうと思ってね!」

「キミ裸を見ただけで」

「こんなに勃起しちゃったんだ!」

「そうだなとりあえず・・・」

「手」キだ!」

くっ!

だ・だれこんな  
汚いモノを手で・・・

シコ

ああ・・・いやだ・・・  
手が勝手に・・・!

いやだ・・・  
こんな卑猥なモノ・・・

手が勝手に動いちゃっつ!

触りたくないのに!

くっくっくっくっく!!



「ああ……っ」

「火野さんの手」キキキ  
とっつても気持ちよかつたよ！」

「さあ……次は……」

これ以上  
まだなにかさせる気なの！？

くっ！

ひんひん……

「ほら見ておじいちゃん……  
もう痛いらしいよ！」

「舐めてくれるー！」

舐めろ……ですって！

そんなこと  
できるわけないでしょ！

い……いやあああつ！

こんなモノ  
舐めるなんてっつ！

絶対にイヤツツ！

あ……ああつ……

ああ……あああああつ！

イヤアアアアツ！

「おおおおお  
舐めるー！」

「火野さんが僕の手○ポを！」

「舐めるンナーー！」

「おおおおお舐めるンナーー！」

「今度は裏スジも  
舐めてくれる！？」

「下から上……  
舌を這わせて……」

「袋の部分も頼むよー！」

「ここは僕の精液が  
たっぷり詰まった所だー！」

「特に念入りに  
舐めておくれー！」

こんなモノ  
舐めるなんて！

い……いやあああつ！

気持ち悪いっつ！

ああ……あ……

「おおおおお  
舐めるー！」

ああ……あ……あ……

「ああ……気持ちよ……」

イヤアアアアツ！

「おおおおお舐めるンナーー！  
アツアツ舐めるンナーー！」

「今度はその小さな口で  
啜っておくれー!」

「ほら早くー!」

「啜えるんだよー!」

「啜えろですって!」

んっ!

んっ!

「誰がこんなモノ!」

んっ!

「ほら早くー!」

「何度も言わせなさいよー!」

「抵抗しても無駄なんだってー!」

んっ!

「早く啜えるんだよー!」

ゴボウ

んっ!

ゴボウ

ングッ!

んっ!

「おお……おお……」

「啜ってるー!」

「じゃあもっと早くー!」

「火野さんが僕のチ○ポをー!」

んぐっ!

「これがフェラチオー!」

「こんなのエロ動画でしか  
見たことないよー!」

んっ!

「しかも学園トップの  
超美少女火野さんのフェラチオー!」

んっ!

んぐっ!

「しかも学園トップの  
超美少女火野さんのフェラチオー!」

ゴボウ

んぐっ!

ゴボウ

「しかも高飛車で勝気な  
火野さんに啜えさせての……」

「ディーブスロートー!」

んっ!

「あああああっ!」

「気持ちいいっ!」

「火野さんのフェラチオ気持ちいいっ!」



「ういよ火野さん！」

「もっと吸えてっ！」

「吸えてっ！」

「根元まで吸えてっ！」

んっっ！

ゴッポッ

「火野さんのそのくやしそうな顔！」

「たまらないよっ！」

んぐっっ！

ゴッポッ

「屈辱にまみれながら啜える火野さんの顔！」

「うっっっもそそられるよおおっ！」

「記念に撮影していいかな！」

「おおおおおいしい表情だ！」

んっっ！

「吸ってっ！」

シメシメ

んーっ

「もっと吸ってっ！」

「火野さんもっと吸ってっ！」

んぐっっ！

シメシメ

「吸い尽くしてえええっ！」

「あああああああっ！」

「火野さんのバキュームフレラ！」

「気持ちいいっっっっっっっっ！」

んーっ

ドドド

んーっ

「もうダメだッ！」

「イクッ！」

「イクッッ！」

「イクウウウウウウウウッ！」

んーっ

ドドド



「ああ……ごめん火野さん……」

「気持ちよくなって我慢できなかったよ！」

んっっ！

ンンン

ゴキッ

んーっ

ゴキッ

んっっ！

ンンン

ゴキッ

「どうだ火野さん……」

「いっぱい射精ただろう！」

「一滴残らず吸い取ってくれ……」



「いいか火野さん……」

「それは大事な子種汁だ！」

う……うっっ！

ゴクツツ！

「一滴残らず飲み込んだぞ！」



「全部飲み込んだかい火野さん!？」

「口あけて見せてみて！」

ああ……あ……

「全部飲み込んだか！」

「偉いぞ！」

「どうだい僕の精液の味は!？」

「美味しかっただろう!？」



「まだまだ時間は  
たつぷりあるよー!」

「もっともっと」

「たのしもうよー!」

「くっっ!」

「んっっ」

「ほら火野さん……  
手を後ろにまわしてー!」

「いいね……従順だ……!」

「抵抗するのが無駄だと  
わかったのかな!?!」

「なんだこれは……  
ただのペンか!?!」

「ああっ!」  
「そ……それは!?!」

「ん……どうしたの!?!」  
「そんなにあわてて……」

「なんか怪しいな?!」

「これは何!?!」

「なにか大事なものでしょー!?!」

「隠しても無駄だよ……!」

「くっっ!」

「そ……それは……」

「セーラー戦士の変身ペン……!」

「セーラー戦士!?!」

「うっっ」

「そういうのはネット掲示板で  
もりあがったスレもあったな!?!」

「てっきり都市伝説とばかり  
思ってたんだけど……」

「驚いた……火野さん君が……  
セーラー戦士……!?!」

何・・・ここはどこ？

「写真部の部屋だよー」

「ぜひセーラー戦士とやらを見てみたいんだー」

「変身してくれないかー？」

「誰が変身するんですか！」

ああ・・・身体がまた・・・  
勝手に・・・  
くっっ！

セーラーマーズパワー  
メイクアップ！

愛と情熱の戦士セーラーマーズ！

火星にかわって折檻よ！

「しかし・・・これが

セーラー戦士のスーツー！」

「レオタードのように

胸の形がわかるほどびったりして！」

「ちょっと動いただけで

お尻が丸見えのミニスカ！」

「おおおっ！」

「本当だったんだ！

セーラー戦士！」

「しかも火野さん・・・

キミがセーラーマーズだったなんて！」

本来なら一般人には  
正体は明かせないの！

わかったらいいかげん  
私を解放しなさい！

よけいなお世話よ！



あ……

そ……そんな……

！

「何言ってるのー？」

「伝説のセーラー戦士が  
僕の手の内にあるんだー！」

「こんなチャンスめったにないー！」

「ホールドアップだ！」

でもセーラー戦士に  
そんな催眠アプリなんか……

くっ！

くっ！

「おおおおっっー！」

「効いたーセーラー戦士だも  
このアプリの効きめがー！」

「残念だったねー！」

ムヒッ

「セーラー戦士にも  
催眠効いちゃうんだー？」

「催眠効いちゃうんだー？」

「時間は十分にある……

たっぷり楽しませてもらうつーー！」

「どうやら折檻されるのは  
火野さん……キミのほつのようなね！」

「火野さん……キミのほつのようなね！」

「これが何かわかるかいー？」

「知らないんだ……」

な……何よそれ！？





「あれどうしたのかな!？」

伝説のセーラー戦士が。。。!」

「あんなに悲鳴まであげちゃって!」

ヒューン

あ・あ・あ

ああ・・・

「それに息も荒いよ・・・」

「こんなオモチャに降参かな!？」

ヒューン

バカにしないでくれる!  
そんなものに私は屈しない!

私は妖魔との激戦を  
戦い抜いたセーラー戦士よ!

「ほう・・・それじゃ・・・」

「その屈強なセーラー戦士が  
ピンクローターとの戦いのあと・・・」

「こっちの方は  
どうなってるのかな?」

「ほら脚をあげてみる!」

何するの!?!  
やめなさいよ変態!

「なんだ・・・  
濡れてるんじゃないか!?!」

「もしかしてピンクローターを  
乳首にあてがっただけで・・・」

「こんなにアソ」を  
濡らしてるんだ!?!」

「やっぱり感じていたんだね!」

「ピンクローターで  
感じていたんだね!」

ズツ

くっ!

ああ・・・

ズツ





「あれ・・・どうしたのかな  
火野さん・・・!?!」

「こんなにおツユをたらして・・・」

ああ・・・あ・・・

あ・・・

ああああああ・・・

「もしかして

イッチャったのかな!?!」

「伝説のセーラー戦士が

こんなオモチャごとで・・・!?!」

ああああ

TV

「い・・・いってなんか  
ないわよ!」

催眠アプリなんか使って  
身動きとれないような状態にして!

こんなこと・・・  
卑怯よ!

それから・・・

なんとも言わせないで!

セーラー戦士はこんなオモチャに  
絶対に屈しないっ!

「さすが火野さん!」

「こんな状況でも  
相変わらず強気だな!」

「僕が支えてないと  
立ってられないくらいせー!」

「そんな勝負な火野さんに  
今度は何をしてもらおうかな!?!」

「そうだ!火野さんが・・・

オナってるところ見てみたいな!」

ふさけないで!

オナれ・・・ですって!?!  
できるわけないでしょ!

「おや・・・火野さん・・・」

「オナニーがどういふものか  
知ってるんだ・・・!」

くっ!

「それなら話がはやい！」

マスかけ！

あ…ああ…  
また手が勝手に…

て…手が  
いつときかない！

い…いやだ…  
こんなの…

こんなやつの前で…

こんなこと…

くううっ！

「おおおおお。」

「火野さんがオナリでした。」

「催眠術にかかるとはいえ

知っているんだオナーニーの仕方！」

手が止まらない！

い…いやっつ  
なにこれ！？

「これは凄い！」

「学園トップクラスの美少女の火野さんは  
いつもこんな風にオナってるのか？」

ああああ…ああ…

何やってるのよ！

こんなこと  
撮らないで！

「やっぱり火野さんでも  
性欲は溜まるんだ！」

撮らないでって  
いってるでしょ！

撮らないで！

「セーラー戦士でも  
性欲処理が必要なんだ！」

「高飛車で勝気な火野さんは  
こんな風に性欲処理をしているんだ！」

これ以上見ないでえええっ！

「高飛車で勝気な火野さんは  
こんな風に性欲処理をしているんだ！」



「いいねえ・・・  
火野さんのオナる姿！」

ハアハア  
ハアハア

いいかげんに  
しなさいよ！

くうっ！

なにってるの！  
私がこんなこと・・・

ああ・・・

「でもいつもはもっと激しく  
オナニーしてんじゃないの!？」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

あ・・・あ・・・

「もっといやらしい火野さんを  
見てみたいよ！」

ハアハア  
ハアハア

いやあああああああああつ！

全部あなたの  
催眠アプリのせいよ！

ハアハア  
ハアハア

「誰だって性欲は  
溜まるんだ！」

「恥ずかしがらなくても  
いいんだよ！」

「僕だって何度もキミをスリネタに  
性欲処理してるんだよ！」

こんな下品なこと  
してるわけないでしょ！

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

くうううううううううううっ！

ああ・・・あああああああつ！

いやっ・・・  
こんなのいやなのに・・・!

「もっと激しく!!  
もっと淫らにっ!!」

手が・・・勝手に・・・  
とまらないの・・・!

「オナれっ! オナれっ!」

「もっとオナれえええっ!」

「おおおおおおおつっ」

「セーラー戦士のオナニーショーだっ!」

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

TV

クキキ

クキキ

「スーツを脱いで・・・」

「もっと本気でオナニーしてみてください！」

こ・・・これ以上・・・  
そ・・・そんなこと・・・

あ・・・

いやあああああつ！

また手が勝手に・・・！！

ああ・・・あ・・・

「だめだよー！」

「僕の言うことは絶対だ！」

くっつ！

「おおおうっ」

「もう少しでアソコが！」

ああ・・・あああああつ！

「ああ・・・見えた！」

「これ女子のおマ○コ！」

「火野さんのオマ○コ！」

いやあああああああつ！

うっ・・・見ないで！

そんなに  
まじまじ見ないで！

「いぞ火野さん！」

いやっ・・・  
こんなの絶対いやっ！

くっつ！

なんであなたの前で  
これ以上自慰行為なんか・・・

で・・・でも手が・・・  
手がいうこと・・・

「もっと激しく！」

じ  
じ

クッ  
クッ

じ  
じ

うやっ・・・  
こんなのいやなのに・・・！！

「オナってみせるんだ！」

手が・・・勝手に・・・  
とまらないの・・・！！

「もっとやっやっやっ！」





「あれ・・・火野さん・・・」

「もしかして今・・・」

「いったんじゃないの!？」

ハアハア  
ハアハア

あ・・・

ああ・・・あ・・・

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ああああああ・・・

ち・・・違う・・・  
イってなんか・・・

だ・・・誰か  
あなたの前でなんか・・・

だ・・・誰か  
あなたの前でなんか・・・

「火野さん・・・」

「オマ○」よく見せてみてー!」

「おおおおおっ」

「濡れ濡れじゃないー!」

あ・・・

「膣内はごっつなってるのかな!？」

ああ・・・あ・・・

な・・・なにやってんの!？  
や・・・やめなさいよ!

「あれ・・・!」

「これはごっついうことかな!？」

「こんなにオマ○」

「濡ちしちゃって!」

あ・・・

「これはもう・・・」

準備オツケーってことだよね!

準備ってなによ・・・

これ以上私に何をするつもり!？」

「決まってるじゃないか!」

「セックスだよ!」



「だって火野さん僕のこと  
童貞だってバカにしたよねー！」

「だからキミとセックスして  
童貞を卒業するんだよー！」

ば・ばかいわないで！

セックスですって!?!  
冗談じゃないわ！

誰があなたなんかと！

「うんそつだね。。。」

「そつだね。。。」

「キミの言いつつももつともだー！」

「無理やり女の子を  
犯すのはよくない！」

「そつだね。。。」

「これからこのピンクローターで  
君に折檻をする！」

「それに耐えたら  
勘弁してあげよう！」

何・・!?

そんな約束勝手に！

「君に選択肢はないと思うけどねー！」

「さあ行くよー！」

「セーラー戦士が勝つか!?!」

「ピンクローターが勝つか!?!」

ひいっ！

「世紀の大決戦だ！」

ひいっ！

や・やめてよ！

「これは楽しみだねえっ！」

い・今そんなところに・・

そんなのあてがわれたら!?!





「どう火野さん!？」

ハアハア  
ハアハア

「オマ○「気持ちいい!？」

あ……

ハアハア  
ハアハア

ああああああ……

「隠しても無駄だよ!」

ハアハア  
ハアハア

「その証拠に

キミのオマ○「から……」

ああ……あ……

「オマ○「気持ちいいでしょう!？」

「おつゆがとめどなく

あふれでてくるよ!」

ハアハア  
ハアハア

「もっと気持ちよくなるよっ!」

もっと強く押し当ててあげるよ!」

グッ

いやっ!」

「ほっほっほっ!」

いやっ!」

「おおおおおおおっ……」

「っっっっ愛液が溢れでてくるよっ!」

ああああああああ……

いやあっ!」







アヒッ...

アヒッ...

ア...アヒッ...

「あれ...火野さん!?

大丈夫...!?

ああ...ああ...

あ...

あ...あ...

アヒッ...

ハヒッ...

「だめだ...  
白目むいて失神しちゃった...!」

ポッ

「案外あっけなかったね!」

ポッ

「まさか伝説のセーラー戦士が  
こんなオモチャだった...!」

ビッパ

ビッパ

ビッパ

ビッパ

「い...挿入されるよ!  
火野さん...!」

「さうねー  
行くよ!?!」

ズ



「どこかな・・・!?」

「ムンデさんだよね!？」

「行くよ火野さん!」

「挿入れるよ火野さん!」

「おおおおおっ・・・」

「うおおおおおおっ!」

!?

ああああ・・・っ

ああ・・・っ!

「あああああっ!」

「先っぽが挿入いった!」

あ・・・あああああああっ!

い・・・痛い・・・  
痛い・・・っ

「あと少しだ・・・  
あと少し挿入れば・・・」

「童貞卒業だ!」

ああああああっ・・・  
何・・・何なの!？」

あなた何やってるの!？」

「気がついたんだ!？」

火野さん・・・!」

「何って・・・!?  
セックスだよ!」

「キミ僕のこと童貞だって  
バカにしてたよね!」

「僕は今ここで  
童貞を卒業するんだよ!」

やめてっやめてよ!  
だって・・・私・・・

何バカなこと  
言っているの!？」

「だめだ!」

「だめだだめだあああつ!」

「挿入れるぞつ!」

くううううつ!

「挿入れるぞおおおおおつ!」

だめつ!

だめよつ!

「うおおおおおつ!」

アイ

アイ

ああああ...

やめてつ!

ああ...

...

イヤツツツ!

イヤツ!

アイ

イヤツツツ!

イヤアアアアアアアアアアツ!

アイ



「挿入<sup>は</sup>いったた。。」

「ああ。。挿入<sup>は</sup>いったた！」

「これで僕も  
童貞卒業だ！」

「あれ。。火野さんの  
オマ○コに鮮血が。。」

ああああ。。。。つ

ハアハア  
ハアハア

い。。。。やう

ああ。。。。つ！

ハアハア  
ハアハア

いや。。。。

「僕の子○ポが根元まで

火野さんのオマ○コに！」

あ。。。。あ。。。。

「もしかして火野さん  
処女だったんだ。。。。！」

「童貞の僕をバカにしたのに  
火野さん処女だったんだ。。。。！」

ハアハア  
ハアハア

ズグ  
ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

あああああいやあああつ!

「僕が火野さんの…  
初めての男だっ!」

いやあああああああつ…

「火野さん! 僕の名前  
憶えてなかったよね!」

「でもこれでいやでも  
僕のこと忘れられなくなったね!」

「だって僕が君の  
初めての男なんだから!」

と…撮らないで!

「うおおおおおお。…」

こんな姿撮らないでえええつ!

「火野さんの処女を  
奪ってやった!」

「僕のモノだ!」

「これで火野さんは  
僕のモノだ!」

抜いてっ!

お願い抜いてっ!

お願いよおおおおおつ!

「うおおおおおおおおおおつ!」





「うおおおおおおお」

ああ……あ……

あああああああああああああああ……

「イクツッ！」  
ドドド

あ……

「イクツッ！」

ドドド

「射精が止まらないっっ！」

ドドド

「イクウウウウウウウウウウウウ……」

「膣内はやめてっっ！」

「射精るっっ！」

イヤッ！

「射精るっっ！」

イヤッッッ！

「あああああ射精るっ」

イヤッ！

「まだ射精るっっっ！」

「まだまだ射精るっっっっっっっっ！」

いやあああああああああああああ……



「ああ……あ……  
射精しちゃった……」

ああ……っ!

「火野さんの膣内で  
射精しちゃった……!」

「ごめん  
ごめん……」

「あまりにも気持ちよすぎて  
我慢できなかつたよ!」

「しかし哀れだね  
火野さん……」

「これがセーラー戦士の  
成れの果てとは……」

「でもこれでこれからの  
学園生活が楽しくなりそうだ!」

「明日からもよろしくね!」

「僕の火野さん!」

奥付  
催眠惑星Mars

発行日 2022年5月1日  
発行 おとこじゅく  
発行者 ななしのいち  
印刷 大陽出版株式会社様  
連絡先 bunotumikokia@yahoo.co.jp  
18歳未満に方の購入を禁じます





# 催眠惑星 Mars

おとこじゆく  
なしのいち

成人向